

○「コシガヤホシクサと *Eriocaulon septangulare* との関連について」を讀みて (佐竹義輔) Yoshisuke SATAKE: On what I think of Dr. F. Maekawa's opinion, "*Eriocaulon heleocharioides* may belong to the same section with American *E. septangulare*."

本誌 4 月號 116 頁に載つた前川文夫博士の意見について、私は多少の異論があるのでここに述べて見たい。コシガヤホシクサは成程花莖の性質は非常によく *E. septangulare* に似てゐるであろう (この事は私が最初に記載する時も氣付いてはいた)。しかし花部を構成する要素の性質は全く違ふと考える。即ち、コシガヤホシクサでは雌花も雄花も萼片は 3 個で全く癒合し (外方即ち花萼に對する方は開いてゐる)、先端だけが 3 裂してゐて、毛は殆んどない。どちらかと云えばイヌノヒゲ系の性質を表わしている。所が *E. septangulare* では、雌花も雄花も、萼片は 2 個で離生し (僅かに基部丈がくっついてゐる)、長い白毛が多い。これはむしろイトイヌノヒゲに近い性質を表わしている。雌花の花鱗片も、前者のはイヌノヒゲ系、後者のはイトイヌノヒゲ系のものである。これは Britton & Brown の圖を見てもよくわかる。従つて、コシガヤホシクサと *E. septangulare* を同節に入れることは不賛成である。ただ前種を日本の固有種と見てよいかは疑問であつて、後の研究を要する所である。また前川博士は、ホシクサ屬を花部の 2 數性と 3 數性で二亞屬に分けることはやめたいと云われた。私も、もし單に花部の 2 數性、3 數性と云うことだけで分けるならば同感である。しかし、2 數性のものと、3 數性のものが、萼片や花鱗片その他の性質に於ても基本的に違ふものならば、差支ないと思う。檢索表の上では花が 2 數、3 數性としか表われないが、その内容は大いに違つてゐるのであるから。

しかし、2 數性、3 數性で、屬をすかつと二つに分けることは如何にも機械的であるから、前川博士の意見のようにやめて、2 數性、3 數性を腹に入れた上、花部の諸性質によつて節を區別することは賛成である。そうすると、コシガヤホシクサはイヌノヒゲと同じ節 Sect. *Spathopeplus* Nakai に入り、*E. septangulare* はイトイヌノヒゲと同じ節 Sect. *Nasmythia* Mart. に入ると考える。

子房一室、一種子、一柱頭のエゾホシクサ、子房二室、二種子、二柱頭のマツムライヌノヒゲ、ナガトホシクサはシロイヌノヒゲの減數したもので、その一變異であるに過ぎない。エゾイヌノヒゲは、外觀特に總苞片の性質はイトイヌノヒゲに似てゐるが、花部は 2 數性のものと 3 數性のものが混在し雌花の萼片花鱗片の性質はイヌノヒゲ系である。前川博士はイトイヌノヒゲとニツボンイヌノヒゲの雜種と考えられたが、この結論は少し早過ぎると思つてゐる。ホシクサ屬のものは殆んど一年草であるから、細胞遺傳學的研究の好材料と思われるが、種の類縁關係はその究明によつて裏付けられなければならない。